

## 駒ヶ根市文化財

駒ヶ根市の考古年表		
年代	時代	事柄
BC20,000 年頃	後期 旧石器時代	このころの日本列島は、第4氷河期の末である。 乗鞍・御岳・焼岳などの噴火による火山灰によって、厚い新規テフラ(ロームー赤土)がつくられた。
BC13,000 年頃		上伊那では、ナイフ型石器・尖頭器などを使用。 御園宮の前遺跡(伊那市)、勝間遺跡(伊那市高遠)などがある。
	旧石器時代 末期	神子柴遺跡(南箕輪村)より発見された石器類は、「神子柴型石器」と呼ばれ有名である。 市内下平 <u>上の原遺跡</u> より同時代の石器が発見されている。 火山灰の堆積が終わり、気候も温暖化してくる。投槍に用いるスマートな有舌尖頭器が出現し、市内赤穂の <u>大城林遺跡</u> (南割)・ <u>辻沢遺跡</u> (福岡)からも出土している。
BC10,000 年頃	縄文時代 草創期	土器と弓矢が発明され、狩猟・漁労・採集を生業とする新しい生活様式が生み出された。
BC 7,000 年頃	早期	早期の末頃には、温暖化の影響による海面上昇が始まり「海進現象」が見られるようになり、海辺である関東・東海地方からの土器が入ってくる。 上伊那では、百駄刈遺跡(伊那市西春近)、三ツ木遺跡(伊那市富県)、萱野遺跡・澄心寺下遺跡(箕輪町)、宮の原遺跡(伊那市高遠)、向山遺跡(宮田村)、カゴタ遺跡(飯島町)などが、 市内では、中沢 <u>高見原横山 A 遺跡</u> (菅沼)、 <u>的場 門前遺跡</u> (中割)、赤穂 舟山遺跡(南割)、 <u>養命酒工場用地内遺跡</u> (福岡)、東伊那では <u>反目南遺跡</u> (栗林)、 <u>殿村遺跡</u> (伊那耕地)などがある。
BC 4,500 年頃	縄文時代 前期	温暖化もピークを迎え、縄文人の生活力が増大してくる。竪穴式住居址も増え、数軒単位の集落が出来、土器は尖り底や丸底から平底に変化してくる。 前期の初めには、東海地方の影響を受けてこの地方独特の「中越式土器」が造られた。 上伊那では、中越遺跡・本宮神社東遺跡(宮田村)、百駄刈遺跡(伊那市西春近)、宮の原遺跡(伊那市高遠)などが、 市内では、赤穂 <u>養命酒工場用地内遺跡</u> 、中沢 <u>高見原横山 B 遺跡</u> (菅沼)、東伊那 <u>殿村遺跡</u> などがある。
BC3,000 年頃	縄文時代 中期	縄文文化の熟爛期を迎え、遺跡の数も急速に増えてくるとともに、集落の大規模定着化が進み、土器・石器とも多様な形のものが作られた。また石棒・香炉型土器・顔面把手付土器など呪術的信仰も行われた。中期の後半になると、太田切川より南から下伊那地方を中心に、伊那谷独特な土器が作られるようになってくる。

## 駒ヶ根市文化財

		<p>非常に栄えた中部高地の縄文文化も中期の末には、冷涼化によって衰退期を迎えることとなる。自然に対する不安などから土偶も盛んに作られる。</p> <p>上伊那では、月見松遺跡(伊那市小沢)、御殿場遺跡(伊那市富県)、勝間・堀遺跡(伊那市高遠)、樋口内城遺跡(辰野町)、中越遺跡、山溝遺跡・追越遺跡(飯島町)など、</p> <p>市内では、赤穂 <u>辻沢南遺跡</u>(福岡)、<u>大城林遺跡</u>、<u>北方遺跡</u>・<u>羽場下遺跡</u>(南割)富士山遺跡(北割)、<u>丸山南遺跡</u>・<u>南原遺跡</u>(上赤須)、<u>原垣外遺跡</u>(市場割)、<u>日向坂遺跡</u>(町4区)、中沢 <u>高見原横山B遺跡</u>、<u>高見原遺跡</u>(中割)、<u>的場・門前遺跡</u>、東伊那 <u>反目遺跡</u>(栗林)、<u>山田遺跡</u>・<u>殿村遺跡</u>・<u>稲村城跡</u>(伊那耕地)、<u>大久保遺跡</u> (大久保)など多くの遺跡がある。</p>
BC2,000年頃	縄文時代後期	<p>気候の冷涼化に伴い、低地に遺跡が移りその数も極端に減ってくる。注口土器・磨消縄文土器が作られ、土偶も多くなってくる。敷石住居址が出現する。</p> <p>上伊那でも同様に遺跡数は少なくなる。大原遺跡(箕輪町)、荒田遺跡(伊那市長谷)、追越遺跡など、</p> <p>市内では、東伊那 <u>青木北遺跡</u>(火山)、中沢 <u>的場・門前遺跡</u>、赤穂 <u>十二天遺跡</u>(福岡)がある。</p> <p>これらの遺跡も後期の前半のもので、伊那谷ではこの後、縄文時代晩期の後半まで、ほとんど遺跡らしい遺跡が見られないという空洞化現象が起こる。</p>
BC1,000年頃	縄文時代晩期	<p>冷涼化が続き降水量も増す。東北・東海地方の影響が見られ、抜歯の風習が見られる。</p> <p>遺跡は少ない。上伊那では、野口遺跡(伊那市手良)、箕輪遺跡(箕輪町)、うどん坂II遺跡(飯島町)、真米遺跡(宮田村)など、</p> <p>市内では、赤穂 <u>荒神沢遺跡</u>(小町屋)、<u>如来寺遺跡</u>(福岡)などがある。荒神沢遺跡の資料は、県内の該期の重要な資料となっている。</p>
BC300年頃	弥生時代波及期(前期)	<p>稲作農耕文化が北九州に伝播して湿田で稲作が行われ、大陸より青銅器・鉄器が入ってくる。</p> <p>伊那谷では、まだまだ縄文文化的様相が色濃く残っている。上伊那では、刈谷原遺跡(中川村)、和泉原遺跡(長谷村)などが、</p> <p>市内では、赤穂 <u>北方遺跡</u>、<u>大城林遺跡</u>、<u>七免川遺跡</u>(市場割)がある。</p>
BC100年頃	弥生時代中期	<p>気候は次第に温暖になり、天竜川沿いに弥生文化が入って稲作が始められる。</p> <p>上伊那では、六道原遺跡(伊那市美篤)、御室田遺跡・木下遺跡(箕輪町)、横前遺跡(中川村)など、</p> <p>市内では、赤穂 <u>大城林遺跡</u>、<u>七免川遺跡</u>、東伊那 <u>反目遺跡</u>がある。</p>

## 駒ヶ根市文化財

AD200 年頃	弥生時代 後期	<p>鉄器が使用されるようになってくる。集落が増大し集落の周囲に堀を巡らした環濠集落が西日本を中心に造られるようになる。また、身分の格差も進み方形周溝墓が造られる。</p> <p>上伊那では、樋口五反田遺跡(辰野町)、堂地遺跡・北城遺跡・箕輪遺跡郡(箕輪町)、鳥井田遺跡・中村遺跡(伊那市)、姫宮遺跡(宮田村)など遺跡数も増え、集落も大規模になってくる。</p> <p>市内では、赤穂 <u>七免川遺跡</u>、東伊那 <u>反目遺跡</u>、<u>反目南遺跡</u>、遊光遺跡・善込遺跡・<u>栗林神社東遺跡</u>(栗林)、<u>狐久保遺跡</u>(伊那耕地)、<u>殿村遺跡</u>など、湿地帯を利用した稲作に支えられた大集落がつけられた。<u>反目遺跡</u>、<u>反目南遺跡</u>では、方形周溝墓が発見されている。</p>
239 年		倭の女王の卑弥呼が魏に使いを送る。
300 年	古墳時代	<p>権力の象徴として古墳が築造され、埴輪も作られるようになる。土師器が使われ、鉄製農耕具が普及する。</p> <p>県下では、弘法山古墳(松本市)、森將軍塚古墳(千曲市)などの前方後円墳が造られる。</p> <p>この時期の遺跡は郡下では少なく、堂垣外遺跡(伊那市)が知られるくらいである。</p> <p>市内では、東伊那 <u>遊光遺跡</u>からこの時期の竪穴式住居址が発見されている。</p>
500 年		カマド、須恵器が普及し始める。この頃から、市内でも円墳( <u>中通り下古墳</u> ・ <u>小鍛冶古墳群</u> )が造られ始める。
538 年		<p>仏教伝来 (一説には 552 年)</p> <p>群集墳の発達が見られる。</p>
550 年		<p>松島大墓古墳(前方後円墳)がこの頃作られる。また市内では円墳の丸塚古墳(赤穂小町屋)、<u>原垣外古墳</u>(赤穂市場割)、<u>小鍛冶古墳群</u>、<u>柏原古墳</u>・<u>桃山古墳</u>・<u>稻荷古墳</u> (東伊那栗林)が造られる。</p> <p>市内の集落遺跡としては、赤穂 <u>中通り下遺跡</u>、東伊那 <u>反目南遺跡</u>、<u>反目遺跡</u>、<u>遊光遺跡</u>がある。</p>
645 年		大化の改新 薄葬令が出る。
694 年		藤原京に遷都する。「令制東山道」開かれる。
710 年	奈良時代	<p>平城京に遷都する。</p> <p>奈良時代の後半になると、市内でも平安時代へと続く大規模な集落ができ始める。赤穂 <u>中通り下遺跡</u>、<u>原垣外遺跡</u>、<u>御射山遺跡</u>(市場割)、<u>七免川遺跡</u>、東伊那 <u>反目南遺跡</u>、<u>反目遺跡</u>、<u>遊光遺跡</u>、<u>殿村遺跡</u>がある。<u>反目南遺跡</u>・<u>反目遺跡</u>からは、「礎石」を持った竪穴式住居阿址が発見される。</p>
794 年		平安京へ遷都する。